

15 地域・職域連携推進協議会の活性化に向けた方法の検討  
後期集合研修の実施内容とその評価

研究代表者：荒木田美香子（国際医療福祉大学）  
 研究分担者：松田有子、鳥本靖子（国際医療福祉大学）  
 前田秀雄（東京都医学総合研究所） 巽あさみ（人間環境大学）  
 柴田英治（愛知医科大学） 横山淳一（名古屋工業大学）  
 竹中香名子（国際医療福祉大学）  
 研究協力者：幡野剛史、江副淳一郎（凸版印刷株式会社）  
 井上邦雄、榊原寿治（静岡産業保健総合支援センター）  
 春木匠（康保険組合連合会）、  
 町田恵子（全国健康保険協会）  
 津島志津子（神奈川県保健医療部健康増進課）

研究要旨

**目的：**地域・職域連携推進協議会(以下、協議会)の構成員が、協議会への参加のメリットを感じ、主体的に取り組んでもらうための方策を協議会の事務局が獲得していくこと必要である。そこで、本研究班のモデル事業者を対象に集合研修において、協議会の運営活性化に有効と思われるツール、講義、技術を提示することとした。本稿では、モデル事業者に対して実施した後期の集合研修の内容を提示し、参加したモデル事業者の評価から、提示したツール、講義、技術などの有用性を評価することを目的とした。

**方法：**集合研修に提示した内容はPDCAの中でもC&Aの進め方に着目した講義とビデオ、データの活用の仕方、見せ方に関する講義、小規模事業所における健康経営に関する講義を中心に、地域・職域連携推進ガイドライン改訂に関する解説、「労働衛生のしおり」に関する解説、及び参加者間の情報交換とした。

**結果とまとめ：**後期研修で取り入れた内容はいずれも「やや参考になった」「とても参考になった」が100%であり、好評であった。初期研修で実施した事項（2018年度報告書）についても好評であり、実際に今回のモデル事業者が主催する協議会のワーキングや協議会でも使用されていたことより、前期及び後期集合研修で提案した内容やツールは協議会の事務局が活用すると参加者の主体的な取り組みにつなげることができる内容であったといえよう。今後は、これらの教材や知識を広く公開し、活用していただけるようにすることが必要である。

## A 目的

本研究班の 2017 年度の調査をプロセス評価シートで分析した際に、協議会委員として参加していても協議会の目的は理解しているが、参加するメリットを感じないという傾向がみられた。参加機関によって若干の違いはあるが、協会けんぽでは、協議会の目的は理解しているという回答は 95%を超えているのに対し、メリットを感じないという意見は 20%程度あり、協議会の活動に主体性を感じていないという意見は約 40%程度あった。また、労働基準監督署では約 87%が目的を理解していると回答していたが、協議会参加のメリットを感じないというのが 40%程度、協議会の活動に主体性を感じていないというのは 50%を超えていた。この状態を解決するための方策について、本研究班のメンバーでの検討し、協議会を単なる情報交換の場に終わらせるのではなく、協議会を活性化し、主体的になってもらうため方法として、モデル事業者の初期集合研修で SWOT 分析やブレインライティングを活用した話し合いを取り入れたところ、参加者 9 人の内 7 名がとても参考になったと回答し、2 名がある程度参考になったと回答していた。また、実際に 8 モデル事業者の内、5 か所でワーキングや協議会などでブレインライティングを活用した話し合いを実施していたことより、協議会などを活性化するための方法を提示できたと考える。

一方、プロセス評価シートの分析からは、年度ごとの評価は行っているが年度の目標を達成できていないと回答しているところが約 4 分の 1 あったことに加え、モデル事業者や研究班のメンバーから目標の設定と

評価の仕方が難しいという意見があったことより、後期の集合研修のテーマをデータの活用と評価の仕方の工夫に設定した。さらに、協議会への参加のメリットを感じてもらい、主体的に取り組んでもらうための方策を考えるためには健康経営という視点を協議会に取り入れていくことが効果的と考え、後期の集合研修のプログラムを作成した。本研究は、モデル事業者に対して実施した後期の集合研修の内容を提示し、参加したモデル事業者の評価から、提示したツール、講義、技術などの有用性を評価することを目的とした。

## A. 方法

研究デザインはアクションリサーチとした。2018 年に全国二次医療圏域の保健所にモデル事業への参加希望募集案内を送付し、8 保健所の参加希望があった。後期集合研修は 2019 年 10 月 21 日に実施した。参加者は 8 保健所より 8 名が参加した。

実施内容は表 1 に示した通りであるが、1 番目に「地域・職域連携推進事業の評価と地域・職域連携推進事業の Check & Act」として、ワーキングで今年度の評価と次年度の活動設定を行っている場面を想定したビデオを作成し、評価に協議会の参加者を巻き込んでいく方法を提示した(図 1・2)。次に、モデル事業者から取り組み状況に関する報告してもらい、共有した。3 番目に地域・職域連携を展開するためには、労働衛生行政を理解しておくことが重要であるが、そのミニマムエッセシャルの知識を理解する参考書として、「労働衛生のしおり」を紹介し、解説した。さらに、2019 年 9 月に地域・職域連携推進ガイドライン改訂版が

発表されていたことを受け、4番目にその解説を行った(図3)。5番目に二次医療圏で活用できるデータソース、データの活用、データの見せ方について解説し(図4)、6番目に小規模事業所における健康経営の進めかたについて解説した(図5)。

後期集合研修の評価としては、「参考にならなかった」「あまり参考とならなかった」「やや参考になった」「とても参考になった」の4段階での回答及び感想を自由記載で書いてもらうよう、依頼した。最後に、2019年度版として作成する地域・職域連携推進事業ハンドブック(以下、ハンドブック公開版)について意見を求めた。

### C. 結果

後期集合研修の参加者の評価及び意見を表2に示した。

後期研修で取り入れた内容はいずれも「やや参考になった」「とても参考になった」が100%であり、好評であった。

1番目の地域・職域連携推進事業の評価と地域職域連携推進事業のCheck & Actについては、評価の考え方の整理につながったこと、「各機関、それぞれの事業に対して、実施前にアウトプット指標をあげて置いて、後に実施結果をあげて、1つの表にして示して話し合いに活用する」等の記載があり、自組織での活用のイメージにつながっていた。

2番目の各参加機関からの現状報告についても、「自分のところに取り入れたいエッセンスがあった」等の意見があった。

3番目の「労働衛生のしおり」の解説については、この冊子の存在を知らなかった方、

知っていてもよく読んでいなかったという方もいたが、参考にできるという手ごたえを感じていた。

4番目のガイドラインの改訂版については、ガイドラインへの理解が深まったという意見があった。

5番目の二次医療圏で活用できるデータソース、データ活用、データの見せ方については、「たくさんのデータをどうまとめ、分かりやすく提示できるか悩んでいたのも、とても参考になった」という意見や、ピボットテーブルの活用の必要性についての記載があった。

6番目の小規模事業所における健康経営の進め方については「商工会議所、商工会とは、協力が組める地域ですので、この部分からアプローチが出来ることを学べた」等の意見があった。

また、ハンドブック(2019年度版)については、初期研修で取り入れた内容、後期研修で取り入れた内容に加えて、取り組みの具体例を紹介してほしいという意見があった。

### D. 考察

今回、後期集合研修で取り入れた内容は、モデル事業者の反応ではすべて今後の協会運営に参考になるものであると評価された。

ハンドブック(2018年度版)では目的と評価の関係性、評価の枠組みと評価項目例等を具体的に例示していたが、checkからactにつなげる効果的な方法は述べていなかった。標準的な健診・保健指導プログラム(平成30年度版)においても、保健指導事業の評価についての記載はあるが、評価か

ら次の計画につなげる際の効果的な方法について記載はされていない。特に協議会においては、活動背景の異なる多様な組織が協働することより、共通認識を持って act につなげることは難しい。また、協議会の活動を参加委員のそれぞれの組織活動に位置付けてもらうことが重要であるといえる。本ビデオでは、それを意識したとりまとめ資料の作成を提案し、年度の振り返りの話し合いを行うという場づくりを提案したものであり、こういった活動が位置づいていけば、参加組織の主体性が上がってくるのではないかと考える。

また、データの活用、データの見せ方については、担当者がまずデータをいくつかの観点から分析したうえで、ポイントとなる点をどのように見せるのか、説得力のあるデータにしていくのかという観点が重要であるということ、また地図ソフトを使ったり、ピボットテーブルを活用したりしていくことで、より多くの分析ができることを提案した。終了後の感想にももっと勉強したいという意見が多く、活用可能性を挙げていた。できれば、データの活用、見せかただけでも時間をとった研修会が必要であると考える。

健康経営については、労働者の健康に投資することにより、労働生産性が上がり、労働力が確保されるというポリシーであるが、現在、様々な活動で取り上げられている。また、新型コロナウイルス感染予防でも明らかとなったことであるが、衛生的な環境と

労働者のヘルスリテラシーを向上させることは、企業の業務の継続と発展に今後ますます重要と言えよう。

#### E. まとめ

本稿では、モデル事業者に対して実施した後期の集合研修の内容を提示し、参加したモデル事業者の評価から、提示したツール、講義、技術などの有用性について検討した。後期集合研修への参加者は、各提案事項に参考になったと回答していた。なお、初期研修で実施した事項（2018年度報告書）についても、SWOT分析やブレインライティングを活用した小グループディスカッションも好評であり、実際に今回のモデル事業者が主催する協議会のワーキングや協議会でも使用されていたことより、前期及び後期集合研修で提案した内容やツールは協議会の事務局が活用すると参加者の主体的な取り組みにつなげることができる内容であったと言えよう。今後は、これらの教材や知識を広く公開し、活用していただけるようにすることが必要である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

文末に掲載

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究 「地域・職域連携の推進による生活習慣病予防等に関する研究」

地域・職域連携推進 第2回集合研修

日時：10月21日 10時～16時30分

場所：国際医療福祉大学 赤坂キャンパス 502教室

<本日の研修内容>

10:00-10:10 本日のオリエンテーション

10:10-11:10 模擬事例を使った評価の実際 (荒木田) (資料+CD)  
地域職域連携推進事業の評価と地域職域連携推進事業の Check & Act に着目して

11:10-12:30 各参加機関からの現状報告と質問、課題など (資料)

12:30-13:30 休憩

13:30-14:00 産業保健のミニマムエッセンシャル 「労働衛生のしおり」の紹介と解説 (荒木田)  
(この本は、各保健所に2冊ずつ配布いたします) (資料+冊子2)

14:00-14:25 新ガイドラインの解説 (巽) (資料)

14:25-14:35 休憩

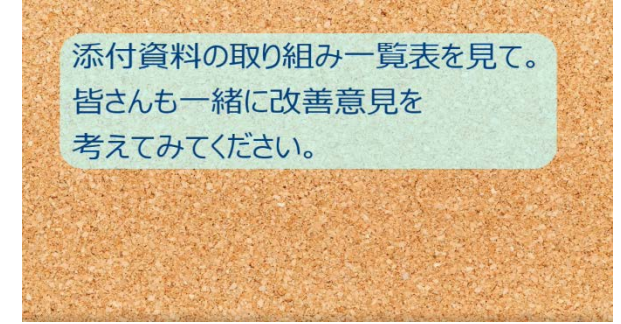
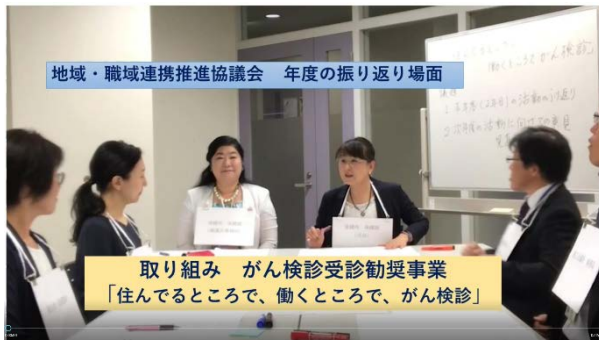
14:35-15:20 講義とデモ:二次医療圏で活用できるデータソース、  
データの活用、データの見せ方について (横山) (資料)

15:20-15:50 小規模事業所における健康経営の進めかた (春木) (資料)

15:50-16:20 ハンドブック ver 2、ツールへのご意見  
(荒木田) (資料)

16:20-16:30 本日の感想・アンケート (資料)

ワーキングで今年度の振り返りと次年度の計画への反映について（C&A）の検討している場のビデオ







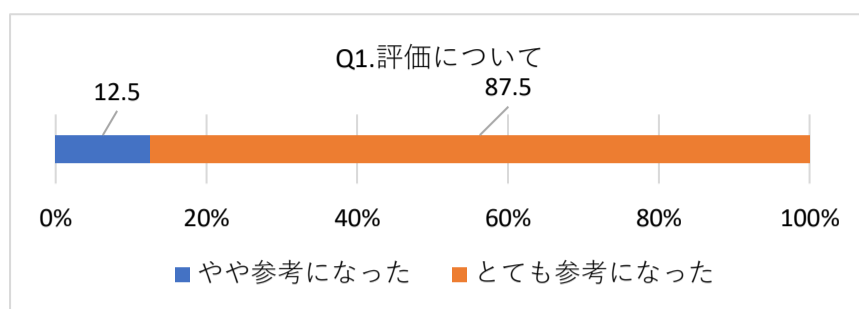




回答は「参考にならなかった」「あまり参考とならなかった」「やや参考になった」「とても参考になった」の4段階で聞いた。  
回答者は8自治体の8人であった。

Q1.評価について

	やや参考になった	とても参考になった	合計
回答数	1	7	8
%	12.5	87.5	100.0



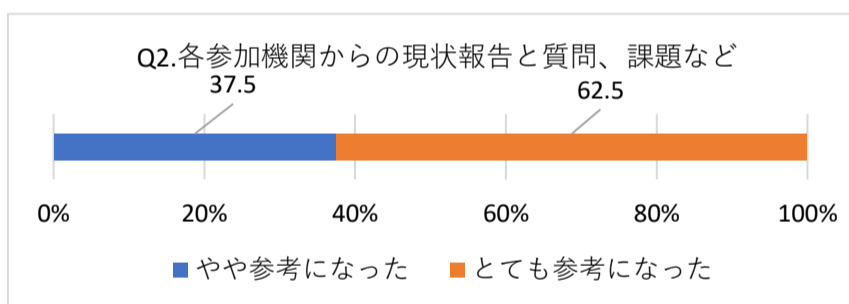
Q1.評価について（自由記載）

- ・評価の考え方の整理が出来た。
- ・評価についての考え方がとても参考になりました。
- ・これまで、評価の仕方が漠然としていたが、アウトプットを複数作っていくことで、長期的な評価にもつながっていくとの見通しを立てることができた。
- ・様々な評価の考え方があることがわかった。
- ・具体的な協議会の進行や評価項目について、分かりやすかった。
- ・各機関、それぞれの事業に対して、実施前にアウトプット指標をあげて置いて、後に実施結果をあげて、1つの表にして示す。取り組みや今後の方向性を考える際にとっても参考になる。
- ・模擬事例が大変実践的で活かせる。
- ・評価の考え方（仕方）に悩んでいたため、とても参考になりました。

また、DVDを参考に部会や協議会を進めていきたいと思えます。

Q2.各参加機関からの現状報告と質問、課題など

	やや参考になった	とても参考になった	合計
回答数	3	5	8
%	37.5	62.5	100.0

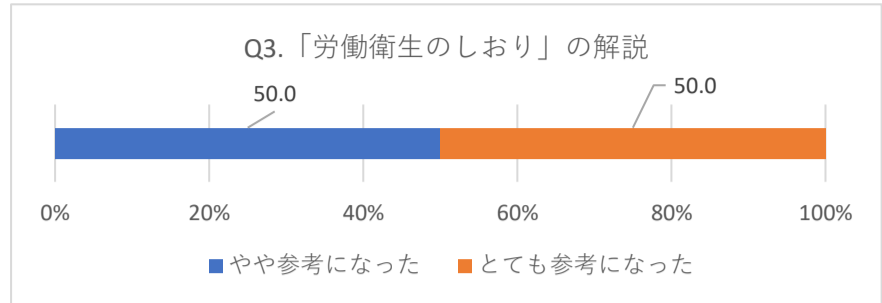


Q2.各参加機関からの現状報告と質問、課題など（自由記載）

- ・具体的に様々な動きをこの事業で行っていることを知ることになった。
- ・様々な協議会の工夫が参考になりました。
- ・年間スケジュールとして様々それぞれのアプローチ法があることを知った。
- ・協議会や目標の立て方、資料など。
- ・各機関の抱える悩みが同様であった。具体的な取り組みを知ることが出来て自分でも使えるところは使っていきたい。
- ・自分のところに取り入れたいエッセンスがあった。
- ・時間的に交流は難しかったが、参考になった。
- ・他府県での取り組み報告を知ることが出来てよかったです。参考にさせていただきたいと思えます。

Q3.「労働衛生のしおり」の解説

	やや参考になった	とても参考になった	合計
回答数	4	4	8
%	50.0	50.0	100.0

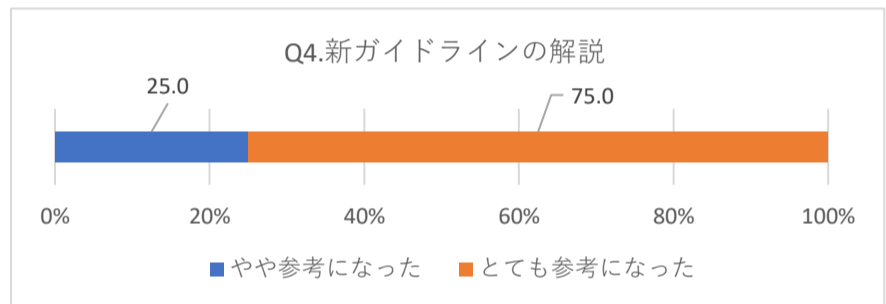


Q3.「労働衛生のしおり」の解説（自由記載）

- ・使いこなしてはいないが、これは必携だとは知っていた。
- ・きちんと読んでみようと思います。1冊にエッセンスがまとまっているのはとてもありがたいと思いました。
- ・職域の理解に今後も役立つと思った。
- ・分かりやすかった。
- ・しおりを見たことがなかったため、今後も見て参考にしたい。企業や商工会等の職域と接するときの参考にしたい。
- ・職域のことがあまり分かっていないことがわかったので、読んで理解を深めたい。
- ・持ち帰り、じっくり確認したい。
- ・職域について理解できていないところも多くあったので、しおりを頂けたこと、解説もしていただけて、とても勉強になりました。

Q4.ガイドライン改訂版の解説

	やや参考になった	とても参考になった	合計
回答数	2	6	8
%	25.0	75.0	100.0

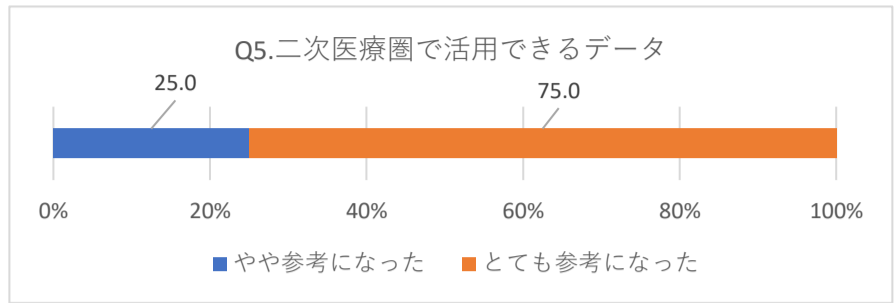


Q4.ガイドライン改訂版の解説（自由記載）

- ・地域でこのガイドラインを有効に使えるようにしたい。
- ・新ガイドラインを既に読んでいたのですが、概要の理解が深まりました。しかし、現場でどれくらいガイドラインに沿えるかはまだ不安があります。
- ・本日、説明を受けることで何を求められているのか、理解しやすかった。
- ・自分で読んで考えるよりも分かりやすい解説でよかった
- ・具体的に、実行できる内容にするということで、より内容を進んだガイドラインになっていると思う。
- ・分かりやすかった。
- ・ガイドライン全てを熟読できていなかったもので、ポイントをわかりやすく説明していただけて、ありがとうございました。

Q5.二次医療圏で活用できるデータソース、データ活用、データの見せ方について

	やや参考になった	とても参考になった	合計
回答数	2	6	8
%	25.0	75.0	100.0

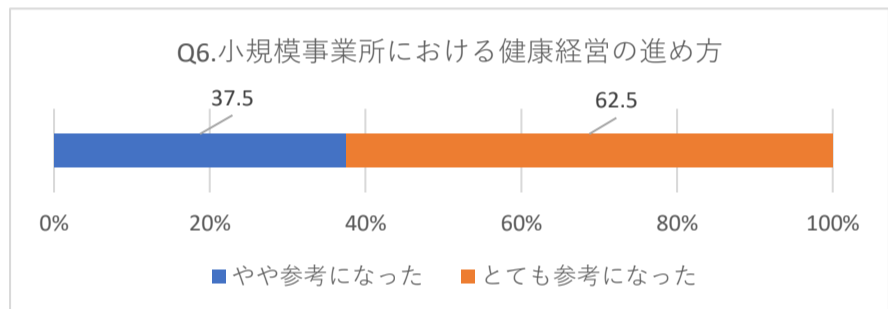


Q5.二次医療圏で活用できるデータソース… (自由記載)

- ・データの扱いに関して苦手意識があり、十分に理解が出来ていないとまでは言えない。
- ・ピボットテーブルを最後に見せていただきましたが、あるリソースをどのように使うと効果的かより学びたいです。
- ・いろんな手法があることを知り、あとは試して自分が活用できるかが課題。
- ・たくさんのデータをどうまとめ、分かりやすく提示できるか悩んでいたため、とても参考になった。早速使ってみたい。
- ・データの見せ方、分かりやすい伝え方など、納得できる内容でした。
- ・見える化することが共有することの一步なので、ツールを使いたい。
- ・今後の実践で勉強したい。
- ・データの見せ方にはずっと悩んでいました。無料のサイト等、情報提供していただいたので、早速見てみたいと思います。

Q6.小規模事業所における健康経営の進め方

	やや参考になった	とても参考になった	合計
回答数	3	5	8
%	37.5	62.5	100.0



Q6.小規模事業所における健康経営の進め方 (自由記載)

- ・商工会議所、商工会とは、協力が組める地域ですので、この部分からアプローチが出来ることを学べた。
- ・健保連さんの現状（医学専門職がない、窓口がはっきりしていない等）を聞いたのが良かったです（どのようにアプローチしたらいいんだろう？と言うのは感じていたので）
- ・小規模事業所における、をもう少し知りたかった。
- ・小規模事業所がほとんどなので、とても参考になった。
- ・健康経営をメリットを伝えていくことで、さらに浸透していくとよいと思った。

データ

- ・健保組合の現状の再認識が出来た。
- ・「健康経営」について初めて聞きました。とても勉強になりました。

#### Q7.その他

記載なし

#### Q8.ハンドブックver2についてのご意見（自由記載）

・地域職域の概念、評価について、参考資料一覧（労働衛生のしおり、他）、連携とは

・既にご書いていただいておりますが、それぞれの役割をはっきり書いていただけるのは関係者に協力を頂くにあたり、とても助かります。また最近の話題との関連や図等で事業全体の回し方や対象が見える形になっているのは、とても示しやすい資料だと感じました。

・**長期目標、中期短期目標に向けて、評価点をどこにどのように置くか**、がわかるようなもの（導かれるヒントになるようなもの）がほしい

・**具体例があると使いやすいと思う。モデル保健所の取り組み例がいろんな視点で紹介してもらえるとよい。**

・**先進的取り組み事例の紹介**（ver1にもありましたが）**データの見方、集計の仕方の簡単なもの**がありましたらいただきたいです。個々のデータはそれぞれ出ていると思いますが、地域を見る時に大まかに全体を見られる指標がありましたら嬉しいです。

・市町村の方にも読んでいただき、事業の重要性を理解していただけるとよいです。

・本日午前中の模擬事例で具体的にどう動かせばよいか大変参考になった。

**ぜひ実践を入れてほしい。**データの活用、整理を効率よく行う方法。

・第1回研修会の中で、SWOT分析・ブレインライティング等とても勉強になり、部会でも活用させていただきました。**GWの効果的な進め方**なども教えていただけるとありがたいです。管轄地域が広い場合の進め方など。

#### Q9.ツールについて

・今年度事業に実際に落とし込んで考えてみたい。